

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すればリスクは相対的に低いと考えられるが、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正使用が図られる必要がある。
- b 医薬品は、人体にとって有益であり、医薬品が人体に及ぼす作用はすべて解明されている。
- c 一般の生活者は、添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることもある。
- d 一般用医薬品の販売に従事する専門家においては、常に医薬品の有効性、安全性等の新しい情報の把握に努める必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 2

医薬品のリスク評価に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 動物実験で求められる50%致死量をED50といい、薬物の毒性の指標として用いられる。
- b 動物実験で医薬品の有効性および安全性が確認されると、ヒトを対象とした臨床試験は省略できる。
- c 医薬品は、食品よりもはるかに厳しい安全性基準が要求されている。
- d 治療量を超えた量を単回投与した後に毒性が発現するおそれが高いことは当然であるが、少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合もある。

- 1 ( a、 b )            2 ( a、 c )            3 ( b、 d )            4 ( c、 d )

問3

医薬品の効き目や安全性に影響を及ぼす要因に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 薬理作用とは、薬物が生体の生理機能に影響を及ぼすことをいう。
- 2 医薬品の副作用は、薬理作用によるものとアレルギー（過敏反応）に大別される。
- 3 医薬品の主作用以外の反応で、特段不都合を生じないものであれば、通常、副作用として扱われることはない。
- 4 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、別の疾病の症状を悪化させることはない。

問4

免疫およびアレルギー（過敏反応）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 免疫は、細菌やウイルスなどが人体に取り込まれたとき、人体を防御するために生じる反応である。
- b 人体にとって、アレルゲンとなり得る物質は、特定の物質に限られている。
- c 免疫機構が過敏に反応して、好ましくない症状が引き起こされることがある。
- d 医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、医薬品によるアレルギーを生じることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問5

一般用医薬品の副作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の副作用により、日常生活に支障を来すような健康被害を生じることはない。
- b 副作用は、容易に自覚できるものばかりでなく、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- c 一般用医薬品の使用中に副作用が現れたときは、必ず用量を減らして対応する。
- d 副作用が起きる仕組みや起こしやすい要因、それらに影響を及ぼす体質や体調等を把握しても、全ての副作用を防ぐことはできない。

1 ( a , b )          2 ( a , c )          3 ( b , d )          4 ( c , d )

問6

一般用医薬品の使用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、購入者等の誤解や認識不足のために適正に使用されないことがある。
- b 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるので、注意が必要である。
- c 一般用医薬品には、習慣性や依存性がある成分は含まれていない。
- d 一般用医薬品を、みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取すると、急性中毒等を生じる危険性が高くなる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問7

一般用医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に必ず複数の薬理作用を示す成分を組み合わせさせて含んでいる。
- b かぜ薬、アレルギー用薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬では、配合されている成分が重複されることは少なく、併用してもよい。
- c 相互作用のリスクを減らす観点からも、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状に合った成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。
- d 医療機関で治療を受けている人は、通常一般用医薬品を併用しても問題ないかどうかについて、治療を行っている医師または歯科医師もしくは処方された医薬品を調剤する薬剤師に確認する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問8

医薬品と食品の相互作用に関する記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

アルコールは、主として肝臓で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、その（ a ）が（ b ）ことが多く、その結果、アセトアミノフェンでは、（ c ）ことがある。

	a	b	c
1	代謝機能	高まっている	作用が強く出過ぎる
2	消化機能	低下している	作用が強く出過ぎる
3	消化機能	高まっている	作用が強く出過ぎる
4	代謝機能	低下している	十分な薬効が得られなくなる
5	代謝機能	高まっている	十分な薬効が得られなくなる

問9

小児等の医薬品使用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児が医薬品を使用する場合において、保健衛生上のリスク等に関して、基本的に成人と同じである。
- b 医薬品の使用上の注意において、小児とは、おおよその目安として、10歳未満をいう。
- c 5歳未満の幼児に使用される錠剤、カプセル剤などの医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。
- d 一般に、小児は、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を及ぼす医薬品で副作用を起こしやすい。

- 1 ( a, b )      2 ( a, c )      3 ( b, d )      4 ( c, d )

問10

医薬品の使用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の乱用の繰り返しによって慢性的な臓器障害等を生じるおそれがある。
- b 人体に直接使用されない医薬品についても、使用する人の誤解や認識不足によって使い方や判断を誤り、有害事象につながることもある。
- c 医薬品の乱用により薬物依存が形成されても、一定期間、その使用を中断すると、依存は容易に消失する。
- d 医薬品の販売に従事する専門家は、必要以上に大量購入を試みるなどの不審な購入者等に対しては慎重に対処する必要があるが、積極的に事情を尋ねたりすることは差し控えるべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 1 1

妊婦、妊娠していると思われる女性および母乳を与える女性（授乳婦）に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。
- 2 一般用医薬品においては、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価は容易である。
- 3 ビタミン A 含有製剤を妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- 4 便秘薬には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

問 1 2

高齢者の医薬品使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として 65 歳以上を指す。
- b 一般に高齢者は、基礎体力や生理機能の衰えがみられるが、個人差が大きいため、年齢のみから一概にどの程度副作用を生じるリスクが増大しているかを判断することは難しい。
- c 高齢者は、生理機能の衰えのほか、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥<sup>えん</sup>下障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰ませやすい。
- d 高齢者の場合、一般用医薬品については、定められた用量の範囲内で使用されることが望ましく、それ以下の量に減らしても十分な効果が得られなくなるだけで、必ずしもリスクの軽減にはつながらない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 1 3

医薬品の品質に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- b 医薬品の外箱等に表示されている「使用期限」は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。
- c 医薬品に配合される成分は、高温や多湿、光等によって品質の劣化を起こさない。
- d 医薬品は、適切な保管・陳列がなされない場合、医薬品の効き目が低下するおそれはあるが、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることはない。

1 ( a, b )          2 ( a, c )          3 ( b, d )          4 ( c, d )

問 1 4

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、結果的または偶発的に薬理作用によらない作用を生じることがプラセボ効果という。
- b 医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、プラセボ効果によるものは含まれない。
- c プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることがある。
- d プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、不都合なもの（副作用）はない。

1 ( a, b )          2 ( a, c )          3 ( b, d )          4 ( c, d )

問 1 5

医薬品医療機器等法に基づく一般用医薬品の定義に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品は、医薬品医療機器等法において「医薬品のうち、その ( a ) において人体に対する作用が ( b ) ものであつて、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの ( ( c ) を除く。 ) 」と定義されている。

	a	b	c
1	用法及び用量	著しい	処方箋医薬品
2	効能及び効果	著しい	要指導医薬品
3	用法及び用量	著しくない	要指導医薬品
4	効能及び効果	著しくない	要指導医薬品
5	用法及び用量	著しくない	処方箋医薬品

問 1 6

登録販売者が一般用医薬品を販売する時のコミュニケーションに関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 医薬品の販売に従事する専門家が一般用医薬品の選択や使用を判断する主体であり、購入者のセルフメディケーションに対して、医薬関係者として指示する姿勢で臨むことが基本である。
- 2 一般用医薬品を使用する人が必要な注意を払って適正に使用していくためには、購入者側の個々の状況把握に努めることよりも、一律の情報提供を行うことが重要である。
- 3 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた本人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- 4 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることもあるため、その医薬品がすぐに使用される状況にあるかの把握は不要である。



問17

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイドは、催眠鎮静成分として承認されていた。
- b 妊娠している女性がサリドマイドを摂取した場合、サリドマイドは血液・胎盤関門を通過して胎児に移行する。
- c 先天異常の原因となる血管新生を妨げる作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、*R*体のみが有する作用である。
- d サリドマイドによる薬害は、我が国のみならず世界的にも問題となった。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問18

次に掲げるもののうち、亜急性脊髄視神経症（スモン）の原因となったものはどれか。

- 1 小柴胡湯 しょうさいことう
- 2 インターフェロン製剤
- 3 塩酸フェニルプロパノールアミン
- 4 キノホルム製剤
- 5 アスピリン

問 19

HIV 訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a HIV 訴訟は、製薬企業のみを被告として提訴された。
- b HIV 訴訟を踏まえ、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。
- c HIV 訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルスが混入した原料血漿<sup>しょう</sup>から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIV に感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- d HIV 訴訟の和解を踏まえ、国は、HIV 感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センターおよび拠点病院の整備等の様々な取り組みを推進している。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 20

クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) および CJD 訴訟に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a CJD 訴訟は、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してクロイツフェルト・ヤコブ病に罹患<sup>り</sup>したことに対する損害賠償訴訟である。
- b CJD 訴訟の和解を踏まえて、CJD 患者の入院対策・在宅対策の充実等の措置が講じられるようになった。
- c CJD の症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- d CJD は、細菌の一種であるプリオンが原因である。

- 1 ( a, b )            2 ( a, c )            3 ( b, d )            4 ( c, d )

【主な医薬品とその作用】

問 2 1

かぜ薬の主な配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげる目的で、プロメラインが使われる。
- b セミアルカリプロテイナーゼは、痰 粘膜の粘り気を弱めて痰 を切れやすくする。
- c プソイドエフェドリン塩酸塩には依存性はない。
- d リゾチーム塩酸塩の重篤な副作用に皮膚粘膜眼症候群がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 2 2

解熱鎮痛成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ピリン系解熱鎮痛成分により、薬疹 等のアレルギー症状を起こすことがある。
- b イソプロピルアンチピリンは、一般用医薬品で唯一ピリン系解熱鎮痛成分である。
- c 非ピリン系解熱鎮痛成分では、薬疹 等のアレルギー症状は生じない。
- d アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしにくい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問 2 3

一般用医薬品に配合される成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 化学的に合成された解熱鎮痛成分により、皮膚粘膜眼症候群のような副作用は生じない
- b 15歳未満の小児に対し、インフルエンザ流行時に使用する解熱鎮痛成分としては、アセトアミノフェンの選択を提案したりする等の対応を図る。
- c イブプロフェンは胃腸への悪影響が少なく、抗炎症作用も示すことから、15歳未満の小児に対しても使用できる。
- d 解熱鎮痛成分の鎮痛作用を増強する効果を期待して、カフェインが配合されることがある。

- 1 ( a、 b )      2 ( a、 c )      3 ( b、 d )      4 ( c、 d )

問 2 4

かぜ薬の主な配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜ薬に、アドレナリン作動成分が配合されることがある。
- b メチルエフェドリン塩酸塩には、気管支を拡張させる作用がある。
- c くしゃみ・鼻水を抑える目的で、抗コリン作用を持つ成分が配合されることがある。
- d トラネキサム酸には、凝固した血液を溶解しやすくする作用がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 2 5

解熱鎮痛成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 解熱鎮痛成分による肝臓でのプロスタグランジンの産生抑制により、肝臓で炎症を起こしやすくする可能性がある。
- 2 解熱鎮痛成分が代謝されて生じる物質がアレルギーとなって、アレルギー性の肝障害を誘発することがある。
- 3 解熱鎮痛成分により、末梢におけるプロスタグランジンの産生が抑制され、腎血流量が増加する。
- 4 解熱鎮痛成分は、なるべく空腹時を避けて服用することとなっている場合が多い。

問 2 6

かぜ薬に配合される次の成分のうち、依存性を有するものの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コデインリン酸塩
- b メチルエフェドリン塩酸塩
- c カフェイン
- d ブロムワレリル尿素

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 2 7

一般用医薬品およびその成分の使用制限に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリチルアミドは、15 歳未満の小児ではいかなる場合も使用してはならない。
- b カフェイン等の眠気防止薬が、15 歳未満の小児に使用されることがないように注意が必要である。
- c 3 歳未満の幼児には、乗物酔い防止薬を安易に使用することのないよう注意する必要がある。
- d 甘草湯かんぞうとうのエキス製剤は、乳幼児に使用してはならない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 2 8

かぜの諸症状に用いられる次の漢方処方製剤のうち、胃腸虚弱、胃炎のような消化器症状にも用いられるものの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小青竜湯しょうせいりゅうとう
- b 葛根湯かつこんとう
- c 麻黄湯まおうとう
- d 小柴胡湯しょうさいことう

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問29

コレステロールに関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 コレステロールは水に溶けにくい物質で、血液中では血漿タンパク質と結合したりリポタンパク質となって存在している。
- 2 コレステロールは生体にとって不必要な物質のため、血中濃度は低ければ低い方がよい。
- 3 コレステロールの産生および代謝は、主として脾臓で行われる。
- 4 コレステロールは、食事から摂取された糖および脂質からは産生されない。

問30

強心薬の配合成分を含む生薬の説明に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センソは、皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示すため、センソが配合された丸薬、錠剤は嚙まずに服用することとされている。
- b ジャコウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- c ゴオウは、強心作用のほか、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
- d ロクジョウは、強い強心作用を有するが、ロクジョウが配合された薬は高血圧、心臓病、腎臓病の診断を受けた人では、偽アルドステロン症を生じやすいため注意を要する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問3 1

次の漢方処方製剤のうち、体力に関わらず広く応用され、便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、食欲不振（食欲減退）、腹部膨満、腸内異常発酵、痔などの症状の緩和に適するとされるものはどれか。

- 1 六君子湯
- 2 苓桂朮甘湯
- 3 三黄瀉心湯
- 4 平胃散
- 5 大黃甘草湯

問3 2

胃腸に作用する成分を服用することにより生じる副作用や基礎疾患の悪化に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アルジオキサは、硫酸ナトリウムを成分として含むため、服用により血液中の電解質バランスが損なわれ、心臓の負担が増加する。
- b 肝臓病の診断を受けた人が硫酸マグネシウムを服用すると、高マグネシウム血症を生じることがある。
- c 合成ヒドロタルサイトの服用により、腎臓病の診断を受けた人では、マグネシウム等の無機塩類の排泄が遅れたり、体内に貯留しやすくなったりする。
- d 胃潰瘍の診断を受けた人が次硝酸ビスマスを服用すると、損傷した粘膜からビスマスの吸収が高まるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正



問33

貧血および貧血用薬（鉄製剤）に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 日常の食事からの鉄分の摂取不足を生じて、初期には貯蔵鉄や血清鉄が減少するのみで、ただちに貧血の症状は現れない。
- b 貧血の原因に、鉄以外の金属成分は関係しない。
- c 体の成長が著しい年長乳児や幼児は鉄欠乏状態を生じやすい。
- d 貧血の症状が見られる以前から予防的に鉄製剤を使用することは適当である。

1 ( a, b )      2 ( a, c )      3 ( b, d )      4 ( c, d )

問34

貧血用薬（鉄製剤）を提供する際に患者に伝える内容に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがある。
- b 鉄分の吸収は空腹時の方が高く、食後に服用するよりも胃腸障害を引き起こす心配が少ないので、食前に服用することが望ましい。
- c 医師の治療を受けている人であっても、鉄製剤が他の薬剤と相互作用することの報告はないので、安心して服用してよい。
- d 食生活を改善し、かつ鉄製剤の使用を2週間程度続けても症状の改善がみられない場合には、漫然と使用し続けずに医療機関を受診する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問35

次の胃腸鎮痛鎮<sup>けい</sup>痙薬の配合成分のうち、消化管の平滑筋に直接働き、胃腸の<sup>けいれん</sup>痙攣を鎮める作用を有するものはどれか。

- 1    ロートエキス
- 2    パパベリン塩酸塩
- 3    メチルオクタトロピン臭化物
- 4    メチルベナクチジウム臭化物
- 5    ブチルスコポラミン臭化物

問36

瀉<sup>しゃ</sup>下薬の配合成分に関する記述について、(       )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

刺激性瀉<sup>しゃ</sup>下成分が配合された瀉<sup>しゃ</sup>下薬のうち、ヒマシ油は( a )刺激性があり、特に腸内容物の( b )排除を目的として用いられる。また、( c )では使用を避けることとされている。

	a	b	c
1	大腸	緩徐な	腎臓病の診断を受けた人
2	小腸	緩徐な	腎臓病の診断を受けた人
3	小腸	急速な	3歳未満の乳幼児
4	大腸	緩徐な	3歳未満の乳幼児
5	大腸	急速な	3歳未満の乳幼児

問37

痔<sup>じ</sup>の薬の注意事項に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 外用痔<sup>じ</sup>疾用薬は局所に適用されるものであるが、坐<sup>ざ</sup>薬および注入軟<sup>こう</sup>膏<sup>こう</sup>では全身的な影響を生じることがある。
- b プレドニゾロン酢酸エステルが配合された坐<sup>ざ</sup>剤および注入軟<sup>こう</sup>膏<sup>こう</sup>では、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。
- c アミノ安息香酸エチルが配合された坐<sup>ざ</sup>剤および注入軟<sup>こう</sup>膏<sup>こう</sup>では、心<sup>き</sup>悸<sup>こう</sup>亢<sup>こう</sup>進<sup>こう</sup>や血圧上昇、血糖上昇を招くおそれがある。
- d ジブカイン塩酸塩が配合された外用痔<sup>じ</sup>疾用薬については、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問38

痔の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 痔に伴う痛みや痒みを和らげることを目的として、リドカイン塩酸塩やプロカイン塩酸塩が用いられる。
- b 痔による肛門部の炎症や痒みを和らげる成分として、ヒドロコルチゾン酢酸エステルが用いられる。
- c 痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として、ベンザルコニウム塩化物が用いられる。
- d 体力中等度以下で冷え症で、出血傾向があり、胃腸障害がない場合の痔出血には、乙字湯が用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問39

女性ホルモン成分（エストラジオールなど）を含む婦人薬の使用を避ける必要のある女性に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 思春期の女性
- b 妊娠している女性
- c 更年期症状を有する女性
- d 母乳を与えている女性

- 1 ( a, b )            2 ( a, c )            3 ( b, d )            4 ( c, d )

問40

次の漢方処方製剤のうち、比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症などに適すとされるが、体の虚弱な人では不向きとされるものはどれか。

- 1 加味 逍遙散 か み しょうようさん
- 2 桂枝茯苓丸 けいしぶくりょうがん
- 3 当帰芍薬散 とうきしやくやくさん
- 4 四物湯 しもつとう
- 5 五積散 ごしやくさん

問41

内服アレルギー用薬として用いられる漢方処方製剤に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

使用する人の ( a ) と症状にあわせて漢方処方が選択されることが重要である。  
( b ) の症状を主とする人に適すとされるものとして、十味敗毒湯、消風散、  
当帰飲子等が ( c ) の症状を主とする人に適すとされるものとして、葛根湯加川芎  
辛夷、小青竜湯、辛夷清肺湯等がある。

	a	b	c
1	年齢	皮膚	鼻
2	年齢	皮膚	目
3	年齢	鼻	皮膚
4	体質	皮膚	鼻
5	年齢	鼻	皮膚

問42

プソイドエフェドリン塩酸塩が配合された鼻炎用内服薬とパーキンソン病治療薬セレギリン塩酸塩との併用を避ける理由として、正しいものはどれか。

- 1 プソイドエフェドリンの効果が消失する。
- 2 プソイドエフェドリンの副作用が現れやすくなる。
- 3 セレギリン塩酸塩の効果が消失する。
- 4 セレギリン塩酸塩の副作用が現れやすくなる。

問43

次の鼻炎用内服薬の配合成分のうち、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって、その充血や腫れを和らげることを目的としたものはどれか。

- 1 ビタミン成分であるパンテノール
- 2 抗炎症成分であるグリチルリチン酸
- 3 抗コリン成分であるベラドンナ総アルカロイド
- 4 抗ヒスタミン成分であるクロルフェニラミンマレイン塩酸塩
- 5 アドレナリン作動成分であるフェニレフリン塩酸塩

問 4 4

次の眼科用薬の配合成分のうち、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられるものはどれか。

- 1 リゾチーム塩酸塩
- 2 ナファゾリン硝酸塩
- 3 ネオスチグミンメチル硫酸塩
- 4 アズレンスルホン酸ナトリウム
- 5 コンドロイチン硫酸ナトリウム

問 4 5

きず口等の殺菌消毒成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アクリノールは、結核菌、ウイルスに対する殺菌消毒作用がある。
- b オキシドールは、真菌、結核菌、ウイルスに対する殺菌消毒作用がない。
- c マーキュロクロムは、真菌、結核菌、ウイルスに対する殺菌消毒作用がある。
- d クロルヘキシジングルコン酸塩は、結核菌、ウイルスに対する殺菌消毒作用がない。

- 1 ( a、b )      2 ( a、c )      3 ( b、d )      4 ( c、d )

問 4 6

ヨウ素系殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ポビドンヨードは、ヨウ素をポリビニルピロリドンと呼ばれる担体に結合させて、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すものである。
- b ヨウ素を含む造影剤によるアレルギーがある場合でも、きず口等の殺菌消毒に使用できる。
- c ヨウ素の殺菌力はアルカリ性になると低下するため、石<sup>けん</sup>鹼等と併用する場合には、石<sup>けん</sup>鹼分をよく洗い落としてから使用する。
- d ヨードチンキは、ヨウ素およびヨウ化カリウムをエタノールに溶解させたもので、皮膚刺激性が強く、粘膜や目の周りへの使用は避ける。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 4 7

外皮用薬として用いられるステロイド性抗炎症成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 患部局所における痒<sup>かゆ</sup>みや発赤などの皮膚症状を抑える。
- b 末梢組織の免疫機能を活性化させる作用を有する。
- c 水痘、みずむし、たむし等または化膿している患部の症状を改善する作用を有する。
- d 主な成分の一つとして、ピロキシカムがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤



問 4 8

外皮用薬として用いられる非ステロイド性抗炎症成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a インドメタシンは、皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透してプロスタグランジンの産生を抑える。
- b ケトプロフェンは、皮膚の炎症によるほてりや痒<sup>かゆ</sup>み等の緩和を目的として用いられる。
- c ジクロフェナクナトリウムは、筋肉痛、関節痛、打撲、捻挫等による鎮痛等を目的として用いられる。
- d フェルビナクは、殺菌作用を有するため、皮膚感染症に対しても効果がある。

- 1 ( a、b )      2 ( a、c )      3 ( b、d )      4 ( c、d )

問 4 9

外皮用薬として用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 尿素は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することにより保湿作用を示す。
- b 胎児への影響を考慮して妊婦はインドメタシンを配合している外皮用薬の使用を避けるべきである。
- c 毛髪用薬に配合されているカルプロニウム塩化物は、女性ホルモンとしての働きにより、脱毛抑制効果がある。
- d ジフェンヒドラミンは、湿疹、皮膚炎、かぶれ、あせも、虫さされ等による一時的かつ部分的な皮膚症状（ほてり、腫れ、痒み等）の緩和を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問50

外皮用薬に用いられる抗菌成分の作用機序に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 スルファジアジンは、細菌の DNA 合成を阻害する。
- 2 バシトラシンは、細菌のタンパク質合成を阻害する。
- 3 硫酸フラジオマイシンは、細菌の細胞壁合成を阻害する。
- 4 クロラムフェニコールは、細菌の葉酸合成を阻害する。

問51

ニコチンを含む禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ニコチンは交感神経を抑制する作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を減弱させるおそれがある。
- b 脳梗塞、脳出血等の急性期脳血管障害、重い心臓病等の基礎疾患がある人では、循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがある。
- c 妊婦または妊娠していると思われる女性、母乳を与える女性では、摂取されたニコチンにより胎児または乳児に影響が生じるおそれがある。
- d うつ病と診断されたことのある人でも、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがないため、使用を避ける必要はない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問52

外皮用薬の使用に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

外皮用薬を使用する際には、適用する皮膚表面に汚れや皮脂が多く付着していると有効成分の浸透性が( a )するため、患部を清浄にしてから使用することが重要である(水洗に限らず、清浄綿を用いて患部を清拭する等の方法でもよい)。また、表皮の( b )が柔らかくなることで、有効成分が浸透しやすくなることから、( c )に用いるのが効果的とされる。

	a	b	c
1	上昇	角質層	就寝前
2	上昇	真皮	就寝前
3	低下	真皮	就寝前
4	低下	真皮	入浴後
5	低下	角質層	入浴後

問53

漢方医学等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方医学は、古来に中国から伝わり、日本において発展してきた日本の伝統医学のことをいう。
- b 漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが有効性および安全性を確保するために重要である。
- c 漢方薬は作用が穏やかであるため、仮に「証」に合わないものが選択された場合であっても、副作用を引き起こすことはない。
- d 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問54

漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 防風通聖散<sup>ぼうふうつうしょうさん</sup>は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、水ぶとりに適すとされる。
- b 大柴胡湯<sup>ださいことう</sup>は、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では、不向きとされる。
- c 漢方処方を構成する生薬には、複数の処方で共通しているものもあり、同じ生薬を含む漢方処方製剤が併用された場合、作用が強くと現れるおそれがある。
- d 防己黄耆湯<sup>ぼういおうぎとう</sup>は、体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるものにきび、顔面・頭部の湿疹<sup>しん</sup>・皮膚炎、赤鼻（酒さ）に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問55

カンゾウ（生薬）に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 グリチルリチン酸を含む生薬成分で、抗炎症作用のほか、気道粘膜からの分泌を抑制する等の作用も期待される。
- 2 むくみ、心臓病、腎臓病または高血圧のある人や高齢者でも安心して使用できる。
- 3 甘草湯<sup>かんぞうとう</sup>は、構成生薬がカンゾウのみからなる漢方処方製剤で、体力に関わらず広く応用できる。
- 4 かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤には構成生薬としてカンゾウを含むものが多いが、葛根湯<sup>かつこんとう</sup>には含まれていない。

問56

ブシ（生薬）に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

キンポウゲ科のハナトリカブトまたはオクトリカブトの（ a ）を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、（ b ）の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。

	a	b
1	全草	心筋
2	種子	平滑筋
3	塊根	平滑筋
4	種子	骨格筋
5	塊根	心筋

問57

殺菌・消毒に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 クレゾール石<sup>けん</sup>鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して広い殺菌消毒作用を示すほか、ウイルスに対しても殺菌消毒作用を有している。
- 2 エタノールは、微生物のタンパク質を変性させ、それらの作用を消失させることから、殺菌消毒作用を示す。
- 3 殺菌・消毒は物質中のすべての微生物を殺滅または除去することであり、除菌は生存する微生物の数を減らすために行われる処置である。
- 4 手指または皮膚の殺菌・消毒を目的とする消毒薬は、全て医薬品としてのみ製造販売されている。

問 5 8

妊娠検査薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊娠検査薬は、妊娠の早期判定の補助として尿中の hCG の有無を調べるものであり、その結果をもって、直ちに妊娠か否かを断定できる。
- b 検体としては、尿中 hCG が検出されやすい就寝前の尿が向いている。
- c 経口避妊薬や更年期障害治療薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても尿中 hCG が検出されることがある。
- d 絨毛細胞が腫瘍化している場合には、妊娠していなくても hCG が分泌され、検査結果が陽性となることがある。

- 1 ( a, b )          2 ( a, c )          3 ( b, d )          4 ( c, d )

問 5 9

ピレスロイド系殺虫成分に関する記述について、(          ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

除虫菊の成分から開発された成分で、比較的速やかに自然分解して残効性が低いため、家庭用殺虫剤に広く用いられている。主な成分の一つとして、( a ) がある。殺虫作用は、( b ) を阻害することによるものである。

	a	b
1	ペルメトリン	神経伝達
2	メトプレン	幼虫の成長
3	ジクロルボス	神経伝達
4	メトプレン	神経伝達
5	ペルメトリン	幼虫の成長

問60

尿糖または尿たんぱく検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 尿糖検査を単独で行う場合は、食後2～3時間を目安に採尿を行う。
- b 検査薬の尿糖または尿タンパクを検出する部分は、長い間尿に浸しているほど、正確な検査結果が得られる。
- c 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- d 尿糖または尿タンパクが陽性の場合には、早期に医師の診断を受ける必要があるが、陰性の場合には、仮に何らかの症状があっても受診等を要しない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤